

講義科目名（コース名）	コンピュータネットワーク論
氏 名	岩田 員典

【教材の目的と概要】

愛知大学 Moodle にて開設したコンピュータネットワーク論コースは、教材の配布、出席の確認、学期末試験の3つの用途に使用した。特に出席の確認と学期末試験では小テスト機能を活用した。

【授業における活用方法】

本コースの活用方法としては、第一に資料の配布がある。本講義では教科書は使用せずに、学生にはキーワードが空白になっている資料を配布し、授業で説明を受けながらその空白を埋めていくという形態をとっている。そのため欠席したり資料を紛失した際に各自で資料を入手できるようにしておく必要がある。これまではその資料を独自の Web ページに公開していたが、それを Moodle 上に移動して公開することにした。

第二の使用法として、出欠の確認としての小テストがある。Moodle が備えている出欠機能は、自動で出欠を取るための機能は備えていない。そこで、授業の開始時に小テストを行うことで出欠をとることにした。前回の講義の内容にかかわる簡単な問題を一問出題し、それに解答することで出席をしたとするものである。

最後に学期末試験として小テスト機能を活用した。これは空欄を埋める問題を

40 問出題し、その結果を学期末試験の結果として扱った。問題の種類は大きく分けて数値を解答する問題と用語を解答する問題の2種類に分けられる。そして、数値問題18問、用語問題22問出題をした。また、各問題についてパターンを1～6問用意し、その中からランダムで出題することで受験生ごとに異なる問題で試験を受けさせた（図1）。ただし、持ち込み不可で試験を行いたかったが、インターネットに接続できるため今回は持ち込み可で試験を行った。

【授業で使った感想】

本コースに対応した科目は実習室を使用しているということもあり、学生への資料の再配布や出席・テストの管理などに利用できかなり有効であった。ただし、操作に慣れるまでやや使い辛い面があったので、現行のようなサポート体制は非常に重要だといえる。

1 問
得点: 1 16進数で「D」は10進数に変換すると になる。

2 問
得点: 1 あるコンピュータが自分自身と通信をする際に用いる専用のアドレスを とする。

3 問
得点: 1 ハブは全てのポートにデータを送信する とする。

図1：学期末試験の例